

A—35 生活改善総合対策樹立のための調査研究
(食糧構成部門)の中間報告

農林省生活改善課

中村延生蔵

香川 綾

高木 和男

長沢 俊三

○佐藤ちよう

大橋 正明

1. 農家における消費構造のうち、食糧構成について、その好ましいあり方を、農家の標準世帯(家族数6名、2タイプ)を設定し、物量的、具体的に明らかにする。

2. まず栄養基準量を、数年後の労働量を推定して算出し、更に標準世帯に合わせて食糧構成基準案の原案を作成し、これを更に1週間単位の献立とすることにし、その献立を現地農家において実験し、修正、加筆を行い基準案を決定し、あわせて金額に換算する。

3. 下記を考慮して基準案の原案を作成した。

ア 農家の食糧構成にあたって、農家の実情にもとずき食品群を大きく5グループに分け、その中で食品の選択(食品入手、費用、調理上の問題、食習慣など)に幅をもたせることにした。

イ 食糧構成基準量を農家の現状とくらべるとかなり補正が必要な食品(穀類、砂糖、いも、果物等)があり、これらについては実情を考慮し変更した。

ウ 献立作成については、1週間分を単位とし、栄養所要量は一日毎にその補足を期すが、食品群別摂取量は一週間の中で充足させる。

なお、今後地域の特性による食糧構成の差異、グループ分けした食品構成の検討及び実験農家でたしかめた後の献立例の金額換算等が問題として残されている。